愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力のお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	重症熱性血小板減少症候群に対する抗体産生に関わる B 細胞抗原受容体レパトア解析
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院　病院長 杉山隆 （試料・情報の提供元の管理責任者）
研究責任者 （個人情報管理者）	（診療科名）第一内科（職名）准教授（氏名）末盛浩一郎
研究期間	研究機関の長の許可日　～　2029 年　3 月 31 日
対象となる方	2012 年 12 月から 2024 年 4 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち重症熱性血小板減少症候群と診断された患者さん
利用する試料・情報等	（利用するカルテ情報）性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況　等 （利用する試料）通常の診療で使用した後に残った試料（血液・細胞・排泄物など）
研究の概要 （目的・方法）	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は 2011 年に中国で初めて報告されたバンヤンウイルス属の SFTS ウイルス（SFTSV）によるマダニ媒介性の新興感染症です。日本において最初の患者が 2013 年に報告され、近年は 100 例以上が発症しており、愛媛県では毎年数例の報告があります。SFTS の致死率は 15~25%とウイルス感染症の中では極めて高く、病態からウイルス性出血熱として認識されています。しかし、まだ有効な治療法が確立されておらず、その発病や重症化機構の解明が喫緊の課題となっています。

	これまで我々は SFTS 患者の末梢血において、B 細胞リンパ球が出現することを観察し、他の研究者も同様の現象を報告しています。これは通常のウイルス感染症では稀であり、SFTS の病態に関与している可能性があります。そのため、感染防御機構において中心的役割を果たす抗体を中心とした液性免疫応答にも重大な影響を及ぼしていることが推測されます。一方、我々は基礎研究において SFTS 感染時に活性化する B 細胞およびそこから誘導される抗体を検出・評価する方法を構築したため、これを臨床検体（血液）で用いることで SFTS の病態解明が進み、治療法開発につながることが期待され、社会的意義は大きいと考えています。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院　第一内科　末盛　浩一郎 791-0295　愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5296